

知財投資・活用の促進メカニズムについて

2021年2月25日

内閣府 知的財産戦略推進事務局

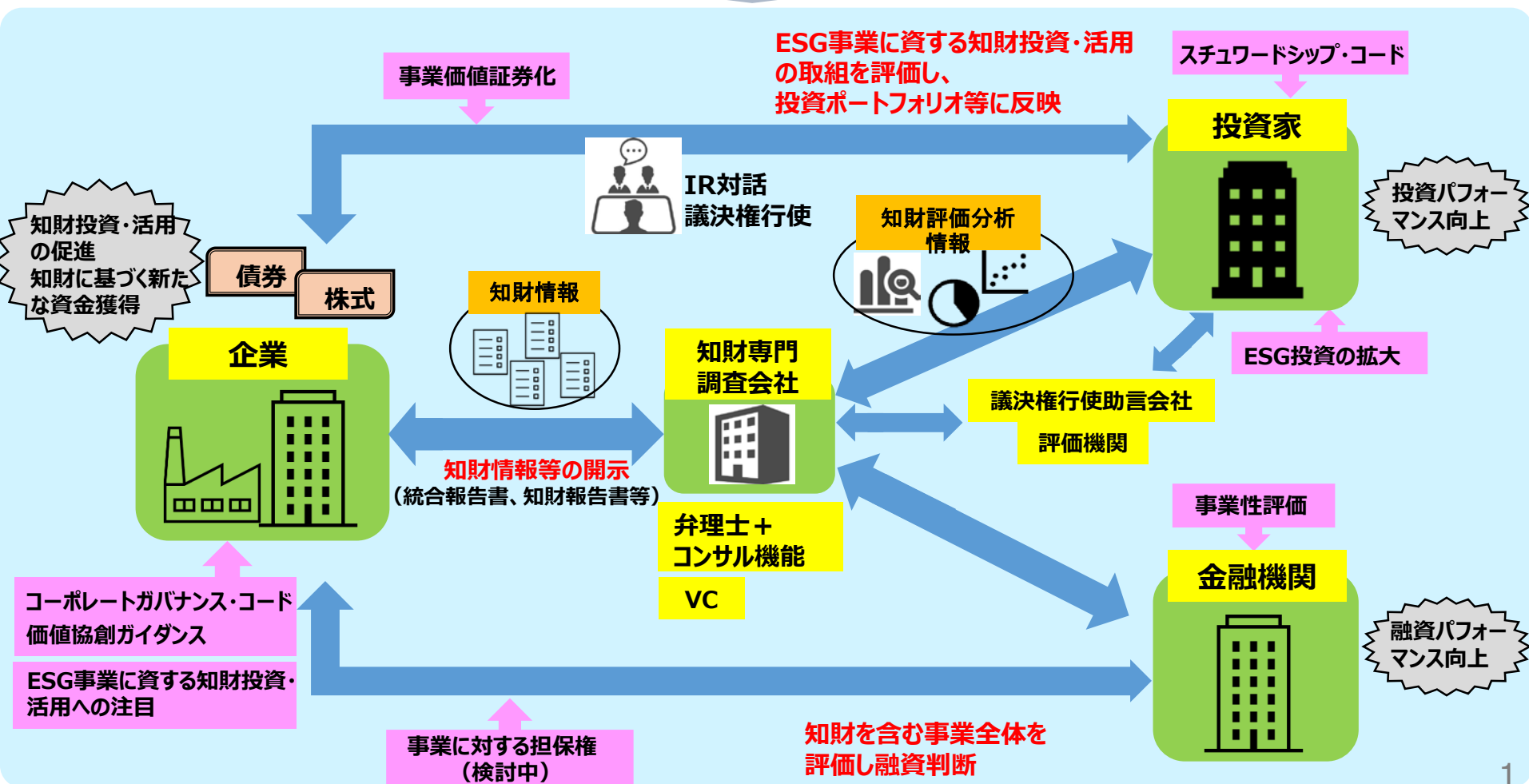
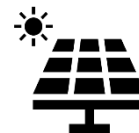
知財投資・活用促進メカニズムのイメージ

第3回構想委員会
事務局説明資料p.4の再掲

企業による知財情報の開示を促し、機関投資家に代わって専門的な知見に基づき評価・分析する調査会社の機能を活用することで、従来よりも企業の無形資産の投資・活用が進む可能性



ESG（環境・社会・ガバナンス）要請の高まり



- 無形資産の可視化は良い考え。特許庁で中小企業の無形資産の可視化を手伝っているが、広くサービスを行ってほしい。
- 日本弁理士会でも中小企業やスタートアップ企業に特化して知財投資・活用の取組を強化している。日本全体として知財投資・活用が活発化していくことを期待している。
- 知財投資・活用促進メカニズムをうまく回すには、事業化に有効で担保価値のある知財が必要。今後の事業まで考えた特許を書ける弁理士の育成をお願いしたい。
- 金融機関には事業性の価値をどう見出すかという目利きがまだまだ少ない。地方の中小企業には様々な技術が眠っている可能性があり、特許や標準化によって将来的に化けるものもあるかもしれない。金融機関の目利き人材を育成することも重要。
- 知財投資・活用メカニズムのスキーム図を、社内の統合報告書を作る方や広報・宣伝など、価値づくりに関わる方々に共有されるということが大きな一歩になる。
- 知財自体の評価が難しいことは理解しつつも、知財の価値評価をするスキームは必要。事業価値を評価できる専門家を加えることがポイント。また、知財の部分を実部の知財部に丸投げするのではなく、CEO自体が自社の知財の価値を正しく認識できるスキルセットを持たせていくような施策が重要。
- 産業政策的なアプローチで市場のメカニズムをうまく補完するということで知財専門調査会社に焦点を当てることはよいアプローチ。知財担保融資については、政府系金融機関の役割も必要。特許を売買する取引市場も重要。
- 特許価値の算定について納得感がない割に手間がかかるという問題や、多数のESG評価機関があって透明性や納得感が薄いという課題がある。特許だけでなくデータの取扱いの評価も欠かせない。
- 特許データの整備やそれを企業の実績と結びつけることが必要。産業政策としてデータの質を高めたり、分散しているデータを一通貫で横串で取れるようにしてほしい。
- 金融機関などがそれぞれの組織で知財をきちんと評価していくことは難しく、知財を評価する会社に関心を持った。
- 企業の非財務情報や無形資産を見える化することで焦点が集まり、企業の活性化につながるというのは重要なポイント。まずはどこに何があるかについてのデータ化を進めることが重要。無形資産の評価は、指標の多様性を確保した上で共通部分を作り出す作業がどの程度できるかがポイント。
- 特許への投資も重要かもしれないが、データの価値も重要。
- 事業成長担保権が設定されるのであれば、リスク・リターンの関係あるいは担保の流動性という面からも、融資というファイナンスが提供しやすくなるため、ファイナンスの多様性からもぜひその実現をお願いしたい。知財専門調査会社ができれば地域金融機関にとっても有り難い。